

図書 紹介

環境衛生工学の実践

著者:中本繁美 (社)発明協会)

発行 : (株)日本地域社会研究所 / 〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-25-1 /

Tel 03-5397-1231 / 46 判 / 207 頁 / 価格 1905 円 (税別) / 2010 年 11 月 8 日

21 世紀は健康と環境の時代と言われる。戦後を振り返ってみると昭和 20 年代は終戦の混乱で衛生状態が悪く、ノミ、シラミ、ダニなどに悩まされ、駆除のため DDT、BHC などの塩素系の殺菌剤が日常的に散布され、30 年代には日本脳炎、赤痢、コレラなどの伝染病や狂犬病や破傷風菌などにさらされ、ハエ、ノミ、蚊、ネズミなどの病原菌を媒介する有害生物が薬剤散布によって駆除された。40 年代は公害が大きな社会問題になり、水俣病、スモッグ、ヘドロ、水質の汚染などが発生し、60 年代からは地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨などの環境問題がクローズアップされ、エイズ、狂牛病、エボラ出血熱、マラリアなどの感染症が世界的規模で、また最近はお蹄疫、鳥インフルエンザと広がりを見せ、依然として微生物との戦いが続いている。

本書は、清潔で快適な地域・都市環境の創造をめざす PCO 業界のリーダーであるイカリ環境事業グループの歴史と挑戦の紹介である。

第 1 章 イカリ消毒の創設の経緯

第 2 章 技術革新への道筋

第 3 章 知的財産権の力

第 4 章 国際的な啓蒙活動

第 5 章 社会貢献

サブタイトルの一部を紹介すると、第 1 章は、消毒会社を創設、社名「錨 (イカリ) 消毒」の由来、デパート火災の大惨事、社会に役立つ消毒技術をめざして、PCO (Pest Control Operaper) 業界の変化などである。第 2 章は、技術革新、技術研究所の創設の原点、「LC ecosys21 環境保障システム」、特許商品のネズミ捕獲「チュークリン」、増えつづけるネズミの被害、予防環境保証システム「J-ライン」の開発、年中無休で「ネズミ」を衛生的に捕獲、予防環境保証システム「無公害防蟻工法」の開発などである。第 3 章は、最先端技術で生物や微生物の被害をデイフェンス、ゴキブリをそよ風で癒す、光で虫を引き寄せ捕獲する「オプトビューアー」、昆虫の目を見えなくする技術、「液体噴射装置」(針芯ノズル) の世界、環境エンジニアリング企業、新進の鳥害防止装置、安心して住めるネズミ

のいない家、ヤマビルに対応した商品開発などである。第4章は、国際親善にも尽力「フィルム制作を通じて啓蒙活動を展開」、世界の国々へクリンネスエンジニアリング、緑の地球を目指して「グリーングローブ」日本支部設立、国際知的財産権がもつ企業価値とはなどである。第5章は、「地球規模の社会的責任企業を自覚」、文化財保存システム技術への挑戦、文化財を害虫から守る、緑の地球をめざして、Web 害虫診断サービス「この虫なみに」、すべての原点は企業理念にあるである。

本書には日本防菌防黴学会との関係については触れていないのが残念である。第5章に文化財保存についての叙述があるが、博物館などの殺菌消毒は、昭和50年頃から殺虫方法が「面」から「場」すなわち「空間」の燻蒸消毒に代ってくる。これらは米虫節夫前日本防菌防黴学会会長(当時大阪大学薬学部)との共同研究によるもので、その後総説的に理論付けされ「環境空間の殺菌処理システムへのアプローチ」として学会に発表され、時を経て平成22年度の米虫節夫前会長の学会賞につながったことに言及してほしかった。本書は一企業の、そして黒沢聡樹イカリ環境グループ代表の叙勲受章記念出版ではあり、PR臭はあるが、PCO業界の歩み、歴史を知るには絶好であり、PCO関係諸氏には一読をお勧めする(尙食品衛生研究会 近藤 武志)。